

コーセー
「架橋型MQレジン」を応用、
強靱かつ柔軟な化粧膜で夏場のカール低下に対応

高温多湿でも24時間カールを維持

コーセーは、汗や皮脂に加え、高温多湿な環境でもまつ毛のカールを維持するマスカラを開発した。独自の化粧もち素材「架橋型MQレジン」を応用し、カールを維持する強靱さと、ひび割れにくい柔軟性を兼ね備えた化粧膜を形成する。高温多湿による化粧膜の変化に着目し、素材と製剤の両面からカールの持続性を高めた。9月16日に発売する「メイクキープ 衝撃のカールキープマジック」(5.5g・1320円)に採用する。

カール低下の根本原因を
化粧膜の状態から分析

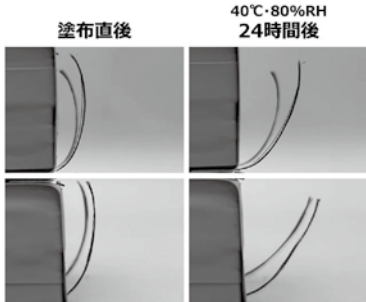
近年は夏場の高温多湿 状態から分析した。特に、 化や猛暑の長期化が進 気温や湿度が高い環境で み、汗や皮脂だけでなく は、化粧膜の状態が変化 湿気による化粧くずれも しやすく、カールを維持 課題となっている。マス するための新たな膜設計 カフでは、時間の経過と が必要と考えた。

ともにまつ毛のカールが マスカラはカールを維 下がることから、同社は 持するために化粧膜を硬 高温多湿環境でカールが くと形状保持力が高 低下する要因を化粧膜の まる一方、まつ毛の動き

さ、まつ毛の動 きに追従する柔軟 性の両立が重要と みた。 こうした考え方 をもとに、化粧膜 のひび割れを抑え ながらカールを保 持できる素材と製 剤の組み合わせを検討 した。

「架橋型MQレジン」で
ひび割れ抑制、均一膜を形成

解決策として採用した ストEX+」などに応 のが、同社独自の「架橋 型MQレジン」だ。同素 材は、こすれや汗に強く、 表情の動きにも追従して ヨレにくい化粧膜を形成 し、「メイクキープミ



割れを抑え、均一な膜を 形成した。 さらに、まつ毛のカー ルに優れるワックス、 汗や皮脂への耐久性に優 と化粧もちを両立させた。

「40℃・湿度80%RH」で
24時間のカール維持を確認

開発品を疑似まつ毛に 評価も実施。約40℃の蒸 気疑似まつ毛に当て続

独自の化粧もち技術を
ポイントメイクへ水平展開

今回の研究成果は、9 月16日に発売する新マス カラ「メイクキープ 衝 撃のカールキープマジッ ク」に応用する。マスカ ラ、マスカラ下地、トッ プコートの商品3役を備 え、まつ毛のカールを長 時間維持する。「架橋型 MQレジン」は、こすれ や汗に強く、表情の動き

さら、高温多湿環境 により水分の影響を受け やすい条件として、フェ イススチーマーを用いた

ける樹脂と組み合わせ、 配合比率を最適化した。 素材それぞれの特性を生 かすことで、カール形成 に直接さらされる環境で もカールを保つことを確 認し、化粧膜のひび割れ を抑える設計がカールの 持続性に寄与すると考え られる結果となった。

右脳の要素とは、 かわい、憧れる、世 界観が好き、といった ことだけではありませ ん。直感的にわかる、 迷わない、安心して 任せられる、「私のこ とをわかってしてくれい る」と感じられる。そ んな「おせっかいな親 切さ」も、これからの 右脳の価値なのと思

高機能になればなる ほど、この「親切さ」 まだがブランドの価値 になっていくのではな いでしょうか。

「左脳の要素」が強

化粧品コンサルタントが教えます
最新・ヒットの法則

法則114 「高機能化」と「判断不要化」



著書『化粧品業界の仕組みと仕事が一冊でわかる本』。20年以上にわたり最前線で活躍。化粧品企画のプロフェッショナルを育成する教育プログラムを企業や大学に提供し、多くの次世代リーダーを輩出している。

女性潮流研究所 所長 / 株式会社KIKAKU BRAIN
CEO 廣瀬知砂子

エクソーム、PD RN、マイクロバイオーム、レチノール。少し前なら一部の美容好きしか知らなかった専門用語が、当たり前のように使われるようになってきました。では、生活者が急に成分に詳しくなったのでしょうか。実はそうではありません。生活者が求めるのは、「詳しい人と同じ結果を、考えずに得ること」であって、自ら詳しくなりたいわけではない。ここは化粧品会社の商品企画の現場でも、意外と誤解されがちなポイントです。

て、専門用語の「認知」が、意味や使い方の理解より先に広がるようになってきました。「PD RNは肌にいいらしい」「レチノールは使ったほうがいいらしい」と名前を知っていても、適切な濃度は？どの順番で使う？毎日使っているの？何と組み合わせればいいのか？までは分からない。

だから最近増えているのが、専門知識を商品側が「行動」に翻訳して渡す設計です。「一包11回分」の美容液、「まずは週2回から」と使う頻度まで示すレチノールケア、「これ1本で完結」と必要な機能をまとめた商品。

裏側の技術はどんどん高度化させながら、表側では「これだけあればいい」とシンプルにする。これは単なる時短やスキップケアとは少し違います。減らしているのは美容の効果ではなく、生活者が「どうすればいいのかわかる脳」の負担なのです。

高機能になればなるほど、この「親切さ」までがブランドの価値になっていくのではな

けたところ、開発品は従来品に比べてカールを維持した。高温多湿下での長時間使用に加え、蒸気に直接さらされる環境でもカールを保つことを確認し、化粧膜のひび割れを抑える設計がカールの持続性に寄与すると考えられる結果となった。